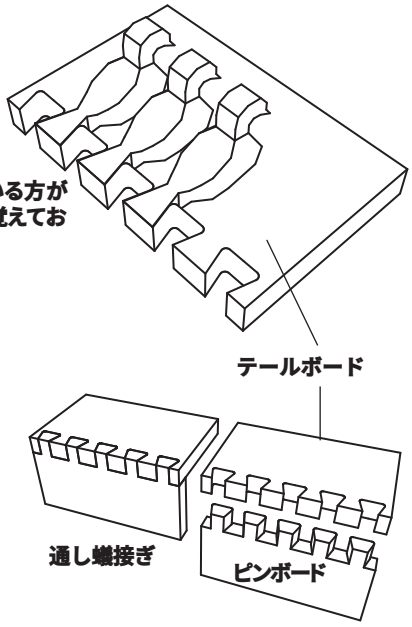
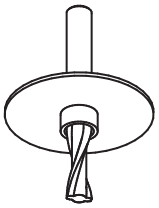
MRAダブテールジグ取扱い説明書

1図

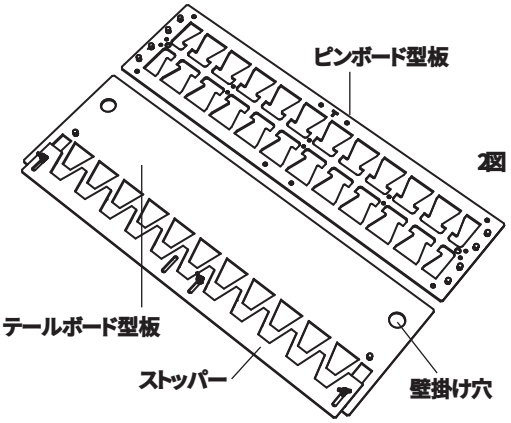


鳩のしっぽに似ている方がテールボードです。覚えておきましょう。



テンプレートガイドとスパイラルビットが別途必要です。

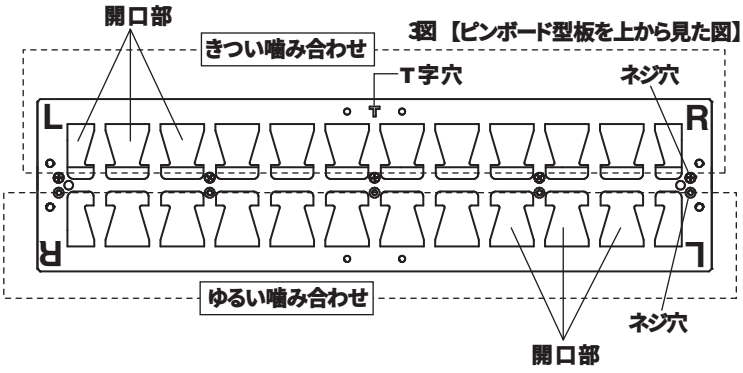
MRAダブテールジグはルーターやトリマーで通し蟻接ぎを加工するジグです。（特許出願中）
使用するビットは刃径1/4インチのスパイラルビット（またはストレートビット）です。また外径3/8インチのテンプレードガイドをルーターに取りつけて使います。これらは本製品に付属しておりません。加工可能な板の厚みは12ミリから25ミリまでで、板の幅は470ミリまでです。（当社のフレームジグをお使いの方は上記のビットとテンプレートガイドをすでにお持ちなので、それをそのままダブテールジグに使用することができます。）
ダブテールジョイントのダブテール（Dovetail）とは鳩のしっぽのことです。



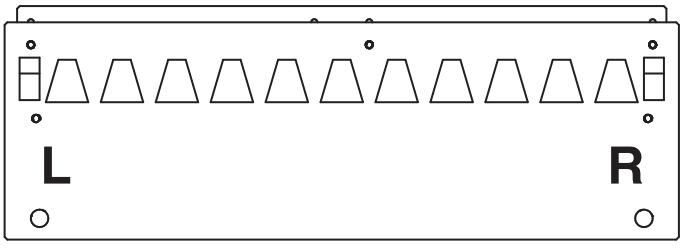
2図

ピンボード型板について

3図のピンボード型板の形状をご覧下さい。同じ形状の開口部が連続して上の列と下の列に並んでいます。（ で囲まれた上下部分です。）ピンボード加工時は上または下の列のどちらかを使います。その違いはT字穴のある、上の列を使って加工すると、きつい噛み合わせの蟻接ぎができ、下の列では、ほんの少しゆるい噛み合わせになります。ゆるい方は硬い木や合板を使う場合などに適しています。



3図【ピンボード型板を上から見た図】

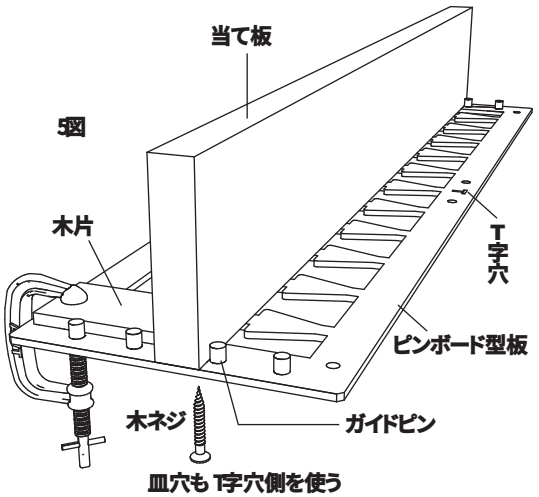


4図

テールボード型板

当て板の取付け

ここでは5図のようにT字穴のある側に当て板を取付けます。当て板はガイドピンに接した状態で取り付けます。木片などをクランプし、当て板がガイドピンから離れないようにして付属の木ネジで固定します。ネジ穴もT字穴側を使って下さい。その際、板には必ず下穴をあけてから木ネジを使ってください。下穴をあけないと板が割れてしまいます。（下穴は太さ2.5ミリ程度のドリルビットであけます。）当て板が少し曲っている場合は、その部分に木片を押し当ててまっすぐにしてからネジ止めしてください。



5図

LとRを書き込む

次にジグに左右の区別をつけるため、3、4図のようにLとRの文字を書き込んでおきます。ジグは材料板の左右どちらかの端に寄せて加工するので分かりやすくするためです。どちらに寄せるかは型板の取付け方向を参照してください。